

地域貢献活動事例報告書

活動団体名	新町古町・町屋研究会	事業名	「暖簾(のれん)で飾られた町屋めぐり」
●活動の概要 町屋巡りツアー、町屋レクチャー、町屋壁塗りワークショップ、町屋掃除ワークショップ、町屋蔵だし骨董市開催			
●活動組織の概要 任意団体		●他の団体・専門家との連携 熊本市開発景観課 熊本市現代美術館	●建築士の関わり 建築士会会員
●活動のきっかけ 新町古町には 400 軒の町屋が現存しているが年 10 棟のペースで解体されこのままでは城下町らしい風情は失われてしまう。町屋を結び目にしてマチとヒトを繋ぐ役割を持たせることを目的としている			
●活動の内容と成果 ●デザインWS：学生・住民を対象（計 4 回開催） 各町屋（10 箇所）をデザインしたスタンプ判の図案化のWS及び日よけ暖簾（10 箇所）に印す新町・古町の各地区統一したデザインの図案化 ①1thWS（2 回開催） ・学生を 10 チームに分け、チーム毎に各町屋をデザインしたスタンプ判の図案化 ・事前にヒアリングした町屋所有者の思いや特徴を掴みながら図案化に取り組んだ ・各町屋スタンプの判デザインの決定（町屋 10 箇所） ②2thWS（2 回開催） ・新町古町、それぞれの地区を表すデザインコンペを実施。当初の WS からチーム編成を行う ・実施したデザインのプレゼン及び審査会（会場 PS オランジュリ） ・審査員：水戸岡鋭治氏 + 町屋所有者 ・日除け暖簾のデザインの決定（10 箇所統一のデザイン） ●町屋めぐり：市民・住民を対象 ツアー：新市電に乗って新町・古町の町屋を巡る フリー：手ぬぐいに各町屋のスタンプを押しながら町屋を巡る			
●今後の課題 少しずつだが城下町風情を残す町屋の役割が理解されてきたがまだまだ課題は多い。その一つが独居老人の一人住まいである。その方が亡くなると残された遺族は（主に子供）その町屋に思いがなくて、解体という流れが後を絶たない。その前にその重要性を認識していただくことが重要である			
●今後の計画 今後はレクチャーイベントやワークショップ、古物蚤の市を定期的に行い、町屋を通して街づくりの関心を高める			
報告書作成者	所属 熊本県建築士会		氏名 長野聖二
連絡先	TEL 096-354-1007	FAX 同左	e-mail nagano@fieldworks.biz

地域貢献活動の資料・写真など（必要に応じて添付して下さい）

